



米コンクリート工学協会の建設  
優秀賞で最優秀に輝いた望洋楼  
の建物 坂井市三国町

# 望洋楼(坂井)建物が最優秀

米コンクリート工学協会

## 技術力、デザイン高評価

### 田中建設(越前市)施工

米コンクリート工学協会(ACI)の2023年コンクリート建設優秀賞で、田中建設(本社越前市)などが施工した坂井市三国町の料理旅館「望洋楼」の建物が低層構造物(3階以下)部門で最優秀に選ばれた。日本コンクリート工学会によると、国内からの受賞は珍しいという。コンクリートには海水で劣化するなど課題がある中、日本海に面して建設した技術力や卓越したデザインが評価された。

望洋楼の建物は21年10月に完成した。鉄筋コンクリート造り、2階建てで、延べ床面積は938平方メートル。7部屋ある客室は、和紙や漆など県産素材を活用し、部屋ごとに特徴的なデザインとなっている。今年6月に日本コンクリート工学会賞の作品賞にも選ばれた。受賞者は、望洋楼を営むする第一望洋楼の刀根瑛昌社長、田中建設建築部の下川成一所長をはじめ、設計設備、材料などを手がけた各企業の代表者、施工などで助言した東京大の友寄篤助教ら11人。友寄助教らのアドバイスを基に、コンク



リート塩害に強い配合にするなど工夫を凝らしたという。ACIはホームページで「浮遊塩素濃度の高い海岸沿いに建てられた高級ホテル

最優秀のトロフィーを持つ  
刀根社長(中央)と田中社長  
(左)、下川所長 坂井市三  
国町の望洋楼

として、防音性能だけでなく、耐久性やメンテナンスの軽減も求められた」と評している。表彰式は10月末に米ボストンで開かれた。業者と一体となってデザ

インなどを一からつくり上げたという刀根社長は「国定公園内で制約が多い中、デザインのにも外国に評価される建物ができた。世界中の人々に触れてもらえたら」と喜びを語った。田中建設の田中大成社長は「友寄助教の指導を受けながら完成させ、素晴らしい賞を受けることができた」と話していた。(佐々木哲也)